

I 第4週の発生動向 (2007/1/22~2007/1/28)

1. 咽頭結膜熱については、八戸、むつ保健所管内において、第50週から**警報**が継続しています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、むつ保健所管内において、第49週から**警報**が継続しています。
3. 伝染性紅斑については、むつ保健所管内において、第3週から**警報**が継続しています。
4. 感染性胃腸炎については、むつ保健所を除く管内では横ばい状態ですが、同管内では増加傾向にあることから、今後も引き続き注意が必要です。(注: 感染性胃腸炎の警報開始定点あたり報告数の基準値は20、解除基準値は12です。)
5. インフルエンザについては、当該週では11人の報告があり、迅速診断キットにより、弘前保健所管内でA型:5件、むつ保健所管内ではA型:1件、B型:2件が報告されています。

II 第4週五類感染症定点把握

注: 五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

保健所名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)		定点数					
	疾患番号・疾患名	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数		定点	数	定点	数	定点	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
(72) インフルエンザ		2	0.14	5	0.33	1	0.07					3	0.50	11	0.17	8			2	0.17					
(59) RSウイルス感染症				22	2.44			7	1.40			1	0.25	30	0.71	-12									
(60) 咽頭結膜熱						19	2.11	1	0.20	6	1.00	7	1.75	33	0.79	5									
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		15	1.67	30	3.33	7	0.78	3	0.60	6	1.00	33	8.25	94	2.24	34			15	1.88					
(62) 感染性胃腸炎		23	2.56	27	3.00	23	2.56	13	2.60	23	3.83	63	15.75	172	4.10	-13	11	11.00	12	1.50					
(63) 水痘		4	0.44	30	3.33	18	2.00	3	0.60	4	0.67			59	1.40	-6			4	0.50					
(64) 手足口病						1	0.11			16	2.67			17	0.40	4									
(65) 伝染性紅斑						1	0.11	1	0.20	10	1.67	13	3.25	25	0.60	4									
(66) 突発性発しん		3	0.33	3	0.33	4	0.44	2	0.40	2	0.33	5	1.25	19	0.45	3			3	0.38					
(67) 百日咳																-1									
(68) 風しん										1	0.17			1	0.02	1									
(69) ヘルパンギーナ																0									
(70) 麻しん(成人を除く)																0									
(71) 流行性耳下腺炎		17	1.89	12	1.33	10	1.11	3	0.60	11	1.83	6	1.50	59	1.40	7			17	2.13					
(73) 急性出血性結膜炎																0									
(74) 流行性角結膜炎						4	2.00			2	1.00			6	0.55	-1									
(82) マイコプラズマ肺炎						2	2.00					1	1.00	3	0.50	-4									

■ は警報

■ は注意報

「空欄」: 患者発生数0

感染症の窓

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

むつ保健所管内では、**警報**が継続し、弘前保健所管内でも、増加傾向にあることから、今後、他の保健所管内においても、注意が必要です(図)。

病原体は、A群溶血性レンサ球菌です。臨床症状は、発熱(38℃前後)、咽頭痛、咽頭発赤、莓舌(舌に莓の表面のような小斑点ができる)、化膿性関節炎、頸部リンパ節炎、発しん等、多様です。

学童期の小児に最も多く、感染は細菌者の唾液や鼻汁の飛散によって拡がることから、幼稚園や保育園、小学校等から帰った後の手洗い、うがいを励行することが、大切です。

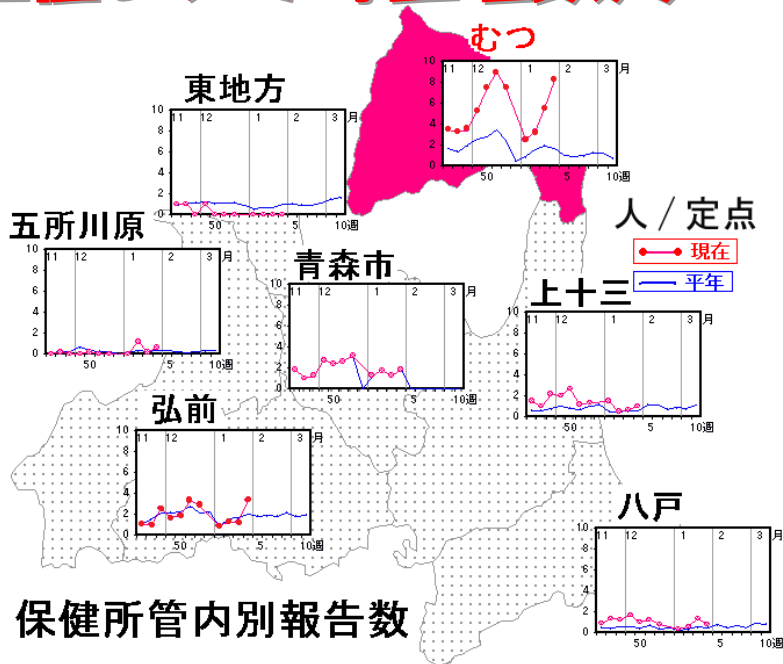


図 保健所管内別報告数